
◎町長行政報告

○議長（土屋清武君） 日程第4、町長の行政報告を行います。

町長から報告の申し出がありますので、これを許します。

（町長 長嶋精一君 登壇）

○町長（長嶋精一君） おはようございます。

平成30年松崎町議会第2回定例会の開会にあたり、謹んで行政報告を申し上げます。平成30年度も早や2か月が経過致しました。4月には、伊豆半島がユネスコの世界ジオパークに認定され、再来年に伊豆市を会場に自転車競技が開催される東京オリンピックと合わせて、世界の注目が伊豆半島に集まり、今後の誘客に繋がるものと期待をしております。

ユネスコの世界ジオパーク認定は、過去に一度認定が保留された経過もあり、関係者一同認定を心待ちにしていたものでございます。

直近の動向といたしましては、伊豆縦貫自動車道の河津下田道路河津トンネルも起工され、今後の事業の進捗が期待されます。その他静岡水わさびが世界農業遺産に指定されたことなども地域の明るい話題だと思っております。

5月には、来年度に開催するディスティネーションキャンペーンに先駆けて全国から旅行代理店や旅行関係の報道機関関係者が多数来町し、当町の魅力を存分にアピールいたしました。

また、駿河湾フェリーが来年3月末で事業から撤退するというショッキングな情報が飛び込みました。これは西伊豆観光に大きな逆風になると思われます。その様な時に、先日、土屋議長が私のところに来られ、近隣市町の首長と議会と一緒に県へ存続依頼に行きたいという話があり、私は、これはまさに行政と議会の一体活動として、評価できるものであると思うわけであります。

また、平成17年以来13年ぶりとなる町政懇談会を町内4会場で開催しましたところ、多くの町民の皆さんにお越しいただきました。課長たちも全員出席いたしましたので、広く町民の皆様の声をお聞きし、町民ニーズや町の課題について把握し、共通の認識とすることができました。このことは、今後の町政に活かして行きたいと考えております。私も町政懇談会に出席し、改めて身が引き締まる思いがしております。

また、平成30年度当初予算への計上を見送りました花畑事業につきましては、民間主導で花畑実行委員会が立ち上がり、クラウドファンディング等を活用しての資金集めを行って

ると聞いております。行政主導のまちづくりから住民が自主的に行動する行政と民間の協働のまちづくりへの変革の表れであると今後の活動に期待しております。

昨年の町長選挙で私が公約に掲げました「順天堂大学医学部附属静岡病院への直通バスの運行」や買い物等支援事業も4月から事業を開始し、いよいよ私の町長としての1年目がスタートしたと実感いたしております。

今後は事業の状況確認を行い、効果を検証しながら総合計画の後期計画に盛り込みましたその他の事業も展開して行きたいと考えております。

町政の運営につきましては、いろいろなご意見があることも承知しておりますが、事業の実施にあたっては、議会の皆様とも慎重に議論を重ねながら、よりよい町政運営を模索してまいり所存でございますので、議員の皆様におかれましても、今後ともご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、観光施設の入館状況について、他5件について、担当課長から報告させていただきます。

○企画観光課長（高橋良延君） それでは、企画観光課から5件の行政報告をさせていただきます。

はじめに町営観光施設の入館状況について資料ナンバー1によりご報告をさせていただきます。

はじめに1ページをお願いいたします。伊豆まつぎ荘の状況でございますが、左側に29、28年度の比較、右側に本年度、前年度の月間の比較となっております。この数字は全て税込の金額でございます。

29年度の利益につきましては、104万5000円で昨年度より21万3000円のマイナスとはなりましたが、昨年度に引き続き利益を計上することができました。

なお、29年度の詳細につきましては、今議会で決算審議をお願いしておりますので、詳細につきましては省略をさせていただきます。

右側に4月の実績がございます。宿泊利用人員は前年度103人減の1653人、入浴・休憩利用人員を加えた利用者数におきましては108人減の2557人となっております。

収益につきましては、前年度より19万3000円ほど減少いたしまして、2356万7000円となりました。公債費、減価償却費を按分して加えた事業費用につきましては、前年度より5万5000円ほど減少いたしまして、2427万円となり、利益につきましてはマイナス70万3000円、前年度より13万8000円のマイナスとなっているところでございます。

続きまして、2ページをお願いいたします。伊豆の長八美術館でございます。4月末ということでの実績でございます。151人減の2008人の入館者がありました。

収支差額につきましては、マイナス34万2000円となりましたけれども、前年度より利益としては8万3000円ほどの改善ということでございます。

重文岩科学校でございます。こちらは130人増の1553人となっております。収支差額については、マイナス48万8000円で、前年度より12万円ほどのマイナスとなっているところでございます。

3ページをご覧ください。明治商家中瀬邸でございます。こちらについては69人増の1053人の利用でございます。収支差額につきましては、マイナス41万8000円ですが、前年度より5万5000円ほどの改善となっているところでございます。

民芸館でございます。民芸館は63人減の527人の利用者でございます。収支差額は、マイナス43万9000円となっております。前年度より16万9000円ほどのマイナスという状況でございます。

4ページをお願いいたします。道の駅花の三聖苑につきましては、4月707人減の3721人でございます。収支差額につきましては、マイナスの71万5000円ということで、前年度より9000円ほどマイナスとなっているところでございます。

4月につきましては、本年は桜の開花が3月19日に開花ということで、ほぼ3月に桜が見頃を迎えたということもありまして、4月につきましては、伊豆まつぎき荘については宿泊者減となっているところでございます。

また、その他入館と入浴施設につきましては、一部の施設で利用人員が増にはなっておりますけれども、まだまだ厳しい状況でございます。

本年から行われますディステーションキャンペーンをチャンスと捉えまして、今後観光素材の提供、情報発信、積極的な営業活動を行いまして、誘客宣伝を展開してまいりたいと思っております。

以上、町営観光施設の入館状況についての報告とさせていただきます。

それでは、続きまして、花の咲くまち推進事業実績について資料ナンバー2によりご報告をさせていただきます。

本事業につきましては、平成12年度より農閑期の水田を利用いたしまして、大規模な花畑を造成し、町の活性化のため取り組んでいるものでございます。規模につきましては、昨年より1851㎡増えまして、6万2927㎡となります。

昨年同様6種類の種を蒔きまして、2月下旬から5月上旬まで順次開花いたしました。

作業工程でございます。作業工程につきましては、昨年と同じく脱穀が終了した場所から順次種蒔きを行うことといたしまして、昨年より5日ほど遅い11月5日に開始いたしました。

最初に咲くアフリカキンセンカにつきましては、昨年より20日ほど遅く2月26日に開花を確認いたしました。

本年はアフリカキンセンカが終わってからのるりからくさ、姫金魚草などの花の咲き方も非常によく那賀川沿いの桜並木とも重なりまして、多くの来場者で賑わったところでございます。

2ページをお願いいたします。事業費となりますけれども、こちらは報償費、委託料、原材料費で532万4269円、その他関連経費で190万6825円の合計723万1094円で前年度に比べまして、1万4000円ほどの減となっております。

来場者につきましては、先ほども言いましたが、今年は桜の開花が3月19日と昨年より1週間以上も早く花畑の見頃とも重なりまして、平成30年につきましては、来場者のカウント日数は41日間で6万6112人となりました。今年の1日あたりの平均来場者数は1612人となっているところでございます。

また、松崎町観光協会におきましては、3月24日から5月5日にかけて花畑に売店を設置するとともに5月4日については花畑でガラポンの抽選会やスタンプラリーなどを実施したところでございます

また、松崎町まちづくりやろうじゃ協議会のリアルかかしの設置も4年目となりました。花畑の賑わいづくりに定着いたしまして、新聞にも大きく取り上げられ多くの皆様に好評を博したところでございます。

以上、花の咲くまち推進事業の実績の説明とご報告とさせていただきます。

続きまして、ふるさと納税の寄附状況につきまして資料ナンバー3によりご報告をさせていただきます。

平成29年度の実績ということでご報告をいたします。

ふるさと納税につきましては、寄附金額によりましてそれぞれ返礼品を用意しております。現在43業者で156品目の返礼品をご用意しております。それらをウェブサイトによる紹介やクレジット決済のシステムを取り入れて、ふるさと納税の確保に努めているところでございます。

平成29年度の状況につきましては、寄附件数が1451件、寄附総額が2759万6500円となりました。その内訳でございますが、5000円から1万円が70パーセントを占めているところでございます。

平成28年度と比較いたしまして、件数では186件の減となりましたが、寄附金額につきましては1万1536円の微増となったところでございます。

納付方法別ランキングがでございます。こちらはクレジットによるものが91パーセント、ほぼクレジットで大多数を占めているというところでございます。

あと、寄附県別がでございます。こちらは東京都、神奈川県、埼玉県ということで、それぞれ寄附が多かったところでございます。

それから、寄附の使途でございますけれども、寄附の使途につきましては、「特に指定しない」「自然と調和し快適な環境が整ったまちづくり」「未来を担う人材を育むまちづくり」という順になっているところでございます。

下に返礼品のランキングも記載してございますので、こちらはまた後でご覧いただければと思います。

平成29年度からは、新たに4事業者、21の品目を加えまして、返礼品の掘り起こしを行いました。

また、ふるさとチョイス、いわゆるウェブですね。ふるさとチョイスのネットサービスの活用ですとか、観光パンフレットなどにふるさと納税のチラシ同封、ホームページの改良など情報発信に努めてまいりました。

なお、平成29年度寄附いただきました2759万円から臨時賃金ですとか、ふるさと納税の特典品、あとはシステムの手数料の支出を差し引いた1500万円余り、こちらをふるさと応援基金として積み立てをしたところでございます。

それでは、続きまして、総合戦略の進捗状況について資料ナンバー4によりご報告をさせていただきます。

まず、松崎町総合戦略については、人口減少対策としてまち・ひと・しごとで特化した平成27年度から5年間に渡る施策事業をとりまとめたものでございます。

なお、この総合戦略は毎年戦略の策定にあたった松崎町日本で最も美しい村推進委員会で検証することとしておりまして、5月7日に委員会を開催いたしまして、この事業の取り組みについて検証し、その結果については広報まつざき7月号で町民の皆様に公表いたします。

それでは、1ページをお願いいたします。1ページについては、施策ごとの客観的な検証を行うための10項目、重要業績評価指標、いわゆるKPIの設定をしている表でございます。この表はまず基準値を定めまして、次に年間目標、計画最終年度の目標値、各年度ごとの実績ということで、こういった表になっているところでございます。

特にこの中で4番、5番のところについては、観光交流人口を挙げております。観光交流人口については、前年度より1万人余り増加いたしまして、前年比3.6パーセント増、この中でも特に宿泊者数でございます。宿泊者数においては、平成22年依頼10万人を超えまして、基準値に対しまして8.7パーセントの増となっているところでございます。

それから、6番、7番のところですが、これは人口の社会増減でございます。27年度では社会減が45名、28年度では社会減が67人、29年度では48人の社会減ということになっているところでございます。

8番目の起業者数でございます。29年度では2件の起業がございました。「ふれあいと一ふや。」を拠点にIT関連の事業それからマウンテンバイク事業者の法人設立等そういった2件の起業があったところでございます。

それから、9番目の空き家活用による移住者数ですね。こちらは29年度、5名ほどございました。

続いて、2ページから4ページですが、こちらについては主な取り組みの箇所のみ説明をさせていただきたいと思っております。

2ページをお開きください。2ページは環境・文化の循環ということでございますが、主な内容でございます。実施事業といたしましては、Matsuzakiスポーツツーリズムといたしまして、マウンテンバイクですとか、海洋スポーツ、岩地における修学旅行ですね。教育旅行の受け入れ、こういったものを展開しているというところでございます。

それから、マツザキフットパス事業というところがありますけれども、こちらについては、月いちノルディックウォーキングですとか、スポーツウォーキングの健康教室を行って、取り組んでまいりました。

また、景観保全の取り組みといたしましては、昨年12月に松崎町は景観行政団体へと移行いたしまして、その後景観講演会、町民を対象に景観講演会を実施しまして、今後地区の説明会、ワークショップなどを行いまして、景観計画の策定に取り組んでまいりたいと考えております。

また、町内の各種団体においては、海ですとか、川、道路沿いなどの景観保全活動に取り

組んでいただいているところであります。

次に4ページをお願いいたします。4ページは、ひと・経済の循環でございます。こちらは、シェアオフィス、起業の場として整備した「ふれあいと一ふや。」の利用でございますけれども、29年度につきましては、800名を超える利用がございました。

また、こちらの協賛会員である企業から1家族松崎町に移住いたしまして、IT関連の仕事を「ふれあいと一ふや。」を拠点に現在行っているところでございます。

産業の振興では、桜葉振興会ですとか、桑葉ファーム、こちらは耕作面積を増やしております。耕作放棄地の解消にこういったところで取り組んでいるところでございます。

また、桜葉振興と棚田保全を担うため、地域おこし協力隊を配置し、体制の強化を図っているところでございます。

また、この中に直売所の整備というのがございますが、直売所の整備については、昨年度の駅パーク構想基本計画を策定いたしましたので、こちらの整備計画に基づきまして今後実施をしてみたいと考えているところでございます。

5ページでございます。5ページは、子育て・教育の循環でございます。子育ての支援事業については、29年は幼稚園の授業料、保育園の保育料を半額といたしまして、保護者の経済的負担の軽減を図ったところでございます。

また、未来の人材育成の取り組みといたしましては、連携型の中高一貫教育の事業実施あるいは松崎高校を含めた賀茂地区・・・、いま賀茂地区で4校ありますけれども、賀茂地区の高校のあり方を賀茂地域の広域連携会議の中で協議を現在のところ始めているところでございます。

そのほかに松崎町といたしましては、常葉大学をはじめ県内大学が松崎町でフィールドワークを行っておりまして、そういったことで交流事業を図っているところでございます。

最後に、6ページ、健康長寿・安心社会の循環でございます。こちらについては、特に健康づくり事業でございますけれども、こちらについては、各事業を行っておりますけれども、結果的にお達者度という評価数値がございますけれども、お達者度数値については、県内で30位前後ということで、県内を見ても特に伊豆地域については下位の方になっているという状況でございます。

このような状況をふまえて、これも広域連携の中で平成30年度から新たにこの健康づくりですね。これに取り組んでいこうということで、今現在もスタートしたというところでございます。

それから、買物支援については、平成30年度から、今年度から既に実証運行をしているというところがございます。

また、最後は安心基盤の整備というのがございますが、こちらについては、避難所となり得る公民館の耐震診断を14か所行いましたので、今後補強計画等を検討してまいりたいと考えております。

以上、ご報告申し上げましたけれども、それぞれの事業において検討値を記載しております。

これらは実施事業の成果を計るうえでの客観的な指標になるものでございます。今後も毎年度総合戦略の評価検証を行いまして、町の施策に反映してまいりたいと考えております。

それでは、続いて5番のところですね。「DC」・ディスティネーションキャンペーンについて資料ナンバー5によりご報告をさせていただきます。こちらの方をお開きください。

ディスティネーションキャンペーン・「DC」とはというのでありますけれども、こちらは、自治体、観光協会、JR6社、旅行業者、協賛会社などが協力して行う国内の最大規模の観光キャンペーンでございます。静岡県においては、実に19年ぶりの開催となるものでございます。

2番目でございますけれども、DCの概要でございますけれども、DCでは県内を5つの地域に分けております。

松崎町においては伊豆地域で、さらに伊豆地域の中でも伊豆の西南海岸ということで、ここに分かれまして旅行商品の造成のための観光素材の提供ですとか、そういったプロモーション活動を実施をしていくものでございます。

次に、スケジュールでございます。スケジュールですが、DCについては本年度から3年間に渡り行われます。本年度、30年度はプレDC、31年度、来年度がDCの本番でございます。32年度がアフターDCということで、3年に渡り展開されるというところがございます。

次に、2ページをお願いいたします。2ページでございますが、既に本年度のプレDCにつきましては、4月1日、伊豆急下駅でのオープニングイベントに始まりまして、5月15日から17日まで全国宣伝販売促進会議というのがありまして、そこで観光商談会、観光宣伝を行ってまいりました。

それから、実際に旅行関係者、マスコミ関係者に松崎町までお越しいただきまして、松崎町の景観、風景、歴史、文化、食、体験などを紹介するプレゼンテーションを行いました。

DCについては、富士山の世界遺産の認定に始まりまして、本年は伊豆のわさびの世界農業遺産の認定あるいは伊豆半島ジオパークの世界認定、来年は県内のラグビーワールドカップの開催、またさらに2020年には東京オリンピック・パラリンピック、こちらの自転車競技が伊豆で開催されるなど、国内はもとより世界に伊豆が発進できるタイミングでこのDCが開催されることをチャンスと捉えまして、松崎町が魅力ある観光地として更に認知度が高まりますよう観光関係者と連携しながら、プロモーション活動を実施してまいりたいと考えております。

以上、企画観光課から5件のご報告をさせていただきました。

○生活環境課長（鈴木 悟君） それでは、生活環境課から行政報告の6番目、公営企業会計平成30年4月末経営状況について報告させていただきます。資料ナンバー6をお願いいたします。

はじめに水道事業会計でございます。本年度4月末収益につきましては、営業収益・営業外収益を合わせまして、1110万1000円、前年対比66万円、5.6パーセントの減となっております。理由としましては、4月末現在の有収水量につきまして7万4216^mで、一般用と営業用の減少により収益減となりました。

また、予定収益を加えました事業収益の合計は1211万2000円、前年対比66万9000円、5.2パーセントの減となっております。

一方、費用の方でございます。営業費用に予定費用を加えた合計は815万3000円、前年対比26万2000円、3.1パーセントの減となっております。

その結果、差引純利益につきましては、395万9000円、前年対比40万7000円、9.3パーセントの減となりました。

続きまして、温泉事業会計でございます。はじめに、収益の方です。営業収益・営業外収益を合わせまして、492万7000円、前年対比22万9000円、4.4パーセントの減となっております。昨年同期と比べますと営業用、自家用ともに1件減少、開栓から休止への変更などにもない収益が減少となりました。

予定収益を加えた事業収益の合計は511万1000円、前年対比24万円、4.5パーセントの減となっております。

一方、費用の方でございます。営業費用に予定費用を加えた合計は346万6000円、前年対比5万円、1.5パーセントの増となっております。

この結果、差引純利益につきましては、164万5000円、前年対比29万円、15パーセントの

減となりました。

両会計とも前年をやや下回っているものの利益を確保できておりますが、水道事業においては、使用水量の減少に伴う収益の減少が続いているところでございます。

また、温泉事業については、収益確保のため引き続き新規加入の促進を図っていきたいと考えております。

以上、4月末公営企業会計の状況についての報告とさせていただきます。

○議長（土屋清武君） 以上で町長の行政報告を終わります。

暫時休憩します。

（午前 9時30分）
